

企画展「^{しぶかわはるみ}渋川春海と江戸時代の科学」

—映画「天地明察」の主人公の資料が一堂に—

9月4日から、10月21日まで、科学館にて企画展「渋川春海と江戸時代の科学」を開催しています。映画「^{てんちめいさつ}天地明察」の主人公である天文学者・渋川春海関連の実物をはじめ、他ではなかなか見ることができない資料たちがご覧いただけます。

■「渋川春海」は、映画「天地明察」の主人公

渋川春海(1639～1715)は安井算哲ともいう、江戸時代の天文学者です。もともとは幕府の将軍に仕える碁打ちで、独自に天文学と数学を修めました。そして、その知識を使って日本初の国産暦「^{しゅうきょうれき}貞享暦」の製作や、日本独自の星座の制定などを行ない、初代の幕府天文方に就任したという、江戸期を代表する天文学者です。

2009年には、渋川春海を主人公とした^{うぶかたど}沖方丁氏の時代小説『天地明察』が出版され、ベストセラーとなりましたが、さらに今秋には映画が公開され、再び注目を浴びています。今回の企画展では、渋川春海の著書を中心とした約30点の関連資料を展示し、春海と当時の天文学の様子がどのようなものだったかを紹介します。

■初公開の資料がいっぱい！

今回の企画展では珍しい資料、初公開の資料もたくさん展示されます。

(1)現存最古!渋川春海の肖像画

渋川春海はどんな容姿の人なのか？残念ながら肖像画は全く残っておらず、よくわかっていません。そんな中、近年、渋川春海の没後110年ほど経った頃に描かれた肖像画が見つかりました。現存するものの中で最も古いこの肖像画を本邦初公開します。

(2)渋川春海が製作した星図を一挙公開

渋川春海は、星座の研究に力を注ぎ、生涯に3点の星図を刊行しています。企画展では、その『^{てんしょう}天象列次之図』『^{てんぶん}天文分野之図』『^{てんせい}天文成象』3点す

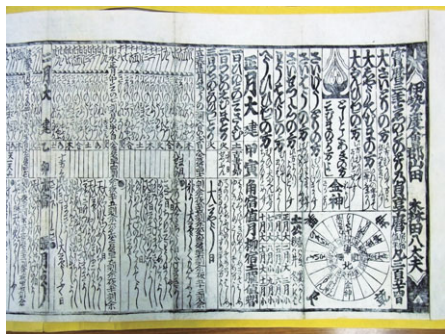


写真：渋川春海肖像画



べてを一挙公開します。3点を同時に展示するのは、日本初のことです。

特に、『天象列次之図』は現存が確認できているのは2点しかなく、大変珍しい資料です。また、『天文成象』には当時使われていた中国星座に加え、渋川春海が制定した61のオリジナル星座も描かれていて必見です。



写真：貞享暦で計算した1753年の暦

■科学館の貴重本も公開します

企画展では、江戸時代の天文学に関連する科学館のコレクションも公開します。中でも、渋川春海が作った貞享暦で計算された暦をはじめ、ヨーロッパから中国に伝えられた西洋天文学を解説した『西洋新法曆書』、江戸後期の幕府天文方が研究に使った天文書『ラランド天文書』(フランス語版)などの貴重本もご覧いただけます。

■映画「天地明察」の撮影道具がやってくる！

9月15日から、映画「天地明察」(岡田准一、宮崎あおい主演)が全国で公開されます。企画展では、「天地明察」製作委員会の特別のご協力をいただき、撮影で使用した道具類を展示します。中でも圧巻なのは主人公が観測に使った「象限儀」という機器。高さが何と約2.5メートル！びっくりするほどの迫力があります。その他、算額など科学系道具類も特別に展示する予定です。映画ファンならずとも、ぜひ一度ご覧いただいた逸品ぞろいです。



写真：映画「天地明察」で使われた象限儀

その他、期間中ギャラリートークの実施も計画していますので、詳しくはホームページをご覧ください。また、ミュージアムショップでは、企画展に関連した解説本、春海の星図をデザインしたクリアファイルなど、他では手に入らないグッズもご用意しています。この機会に、皆様のご来館をお待ちしております。

嘉数 次人(科学館学芸員)